

神仏習合の歴史と儀礼空間

嵯峨井 建 著

▶ A 5 判・430頁／定価9,030円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1671-0

2013年2月刊行予定

日本宗教史の基本位置にある神道と仏教との関わりを、祭祀・法会の空間である神社・寺院の儀礼空間を視점에論じ、神仏習合の実態を明らかにする。神宮寺における神祇奉斎、寺院附属の鎮守社、仏教儀礼である神前読経、神職系図に基づいた神道周縁の仏法との関わり、神仏への天皇行幸、中近世をつうじた京都における神仏習合など、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。

◎内容目次◎

序章

習合研究と本書の視座／本書の概要

第一章 神仏習合と儀礼空間

第一節 神仏習合の基本形態

第二節 社寺行幸と天皇の儀礼空間

賀茂行幸／行幸と御幸の相違点／古代の寺院行幸／中世最後の神社行幸

第三節 神宮寺の神祇奉斎—神仏習合の源流を求めて

多度神宮寺の「神御像」／松尾神宮寺の旧神像／熱田神宮寺の神像図と神祇／日吉神宮寺の「影向山王」／石清水・護国寺の「大菩薩御体」

第四節 仏教空間における神祇

東大寺における神祇関係／神護寺における神祇奉斎／長谷寺の神祇奉斎／天台の神祇奉斎と神祇勧請

第二章 神前読経と經典

第一節 大般若經の伝播と神仏習合

日本における大般若經の受容／神祇と大般若經／神祇法樂經としての大般若經／神祇と大般若經

第二節 中世における神前読経の場

伊勢神宮における神前読経／賀茂社の神前読経／春日社の神前読経／日吉社の神前読経

第三節 一宮・惣社における仏事と大般若經

一宮・惣社における仏事／一宮・惣社と大般若經／惣社の経蔵

第三章 神職系図の研究

第一節 伊勢兩宮の神主系図

仏教の接近／出家神主の出現／受容の諸相／天照大神と本地仏

第二節 『津守氏古系図』の研究

『津守氏古系図』の諸本とその検討／津守氏の出家者／出家神主の出現／退下後の出家神主／僧と尼／出家を支えたもの

第三節 上賀茂神社系図の研究

『賀茂社家系図』と『社務補任記』の史料批判／聖神寺の建立／習合の深化と展開／「入道神主」の出現と堂塔の建立

第四節 若狭彦神社社務系図の研究

習合の実態／神主の出家—十二代景継にみる／光景とその周辺

第五節 宇佐八幡宮の神主系図

奈良時代の宇佐宮／宇佐宮の系図史料／宇佐宮の仏教／平安時代の仏教受容者／像造と結縁者たち／仏事法会の始修／鎌倉時代の出家者たちと帰依者

第四章 洛中洛外の神仏習合

第一節 鴨社の神仏習合

賀茂神宮寺成立の背景／岡本堂をめぐって／神宮寺の成立と発展／近世の神仏習合／神宮寺の終焉

第二節 祇園社の成立と観慶寺

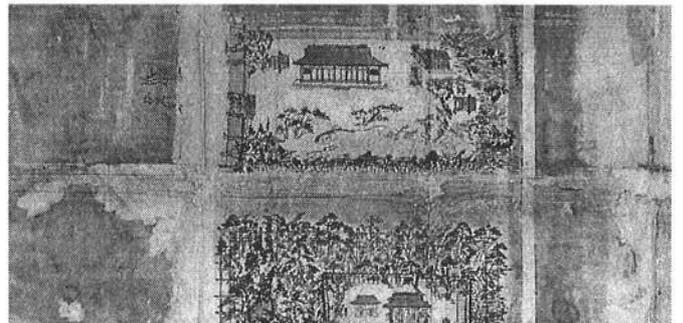
祇園社の当初形態／「神殿」と「堂」の並存／祇園社（観慶寺）の天台化／観慶寺の性格と位置

第三節 天龍寺の鎮守社靈庇廟について

発掘調査による所見／靈庇廟創建とその周辺／後醍醐天皇・夢窓国師・足利尊氏と靈庇廟

終章

資料編 神仏習合年表・大般若經年表



『賀茂御祖神社絵図』にみえる神宮寺付近（京都国立博物館蔵）

さがい たつる：1948年、石川県生、國學院大學神道学専攻科修了、神道学博士（國學院大學）、賀茂御祖神社禰宜、京都大学非常勤講師、京都國學院講師
主要著書に『日吉大社と山王権現』（人文書院、1992年）『満州の神社興亡史』（芙蓉書房出版、1998年）など

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	神仏習合の歴史と儀礼空間		本体8,600円(税別)	ISBN978-4-7842-1671-0
お名前	tel		QRコード	本書HPのQRコード	書店番線印
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）				

*上賀茂のもり・やしろ・まつり

大山喬平監修／石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

古文書・古記録をはじめ建築や神饌などの姿・形のなかに古い神社と失われた日本文化が受けつがれている上賀茂神社。平成18年3月に神社所蔵の約14,000点の文書が重要文化財に指定されたことを記念して、同社主催の歴史文化講座の成果をまとめた一書。

▶A5判・412頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1300-7

祭礼と芸能の文化史 神社史料研究会叢書Ⅲ

園田稔・福原敏男編

【内容】神社廻廊の祭儀と信仰(松尾恒一)／相撲節会と楽舞(廣瀬千晃)／中世諏訪祭祀における王と王子(島田潔)／鹿島神宮物忌職の祭祀(森本ちづる)／越前志津原白山神社の祭礼芸能(宮永一美)／武蔵国幕閣大名領における祭礼の振興(園田稔・高橋寛司) ほか

▶A5判・300頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1159-4

阿蘇下野狩史料集

飯沼賢司編

阿蘇の五岳の西山麓に広がる下野で中世に行われた「下野狩神事」は、頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされている焼き狩神事である。その史料、永青文庫所蔵『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵下野狩関連史料を翻刻。解題、用語解説を付す。

▶A5判・314頁／定価7,875円 ISBN978-4-7842-1611-6

*風俗絵画の文化学 都市をうつすメディア

松本郁代・出光佐千子編

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちや年代とともにどのように姿を変えたのか、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチする。

▶A5判・368頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1469-3

*権者の化現 天神・空也・法然

今堀太逸著

佛教大学鷹陵文化叢書15

仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。

【内容】第1部「天神」日本の災害と道真の霊
第2部「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也
第3部「法然」浄土宗の布教と法然

▶46判・312頁／定価2,415円 ISBN4-7842-1321-X

太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態等を宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1473-0

日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1572-0

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀

皇學館大学神道研究所編

天皇一代一度の国家祭祀・大嘗祭の祭祀・儀式の全貌を示す、最も古い確かな文献である『儀式』(貞観儀式)。本書は、皇學館大学神道研究所が長年に亙り取り組んできた、現存本『儀式』巻二・三・四「踐祚大嘗祭儀 上・中・下」の訓読・注釈研究の成果。

▶B5判・890頁／定価15,750円 ISBN978-4-7842-1619-2

神社継承の制度史

神社史料研究会叢書V

梶山林繼・宇野日出生編

神社・神道研究のみならず、地域史・政治史・社会経済史・文化史、さらに文学・芸能・音楽・民俗ほか幅広い分野の研究に資するという視点で神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的として結成された神社史料研究会(代表・橋本政宣氏)の研究成果のシリーズ第5巻。

▶A5判・348頁／定価7,875円 ISBN978-4-7842-1418-1

社寺造営の社会史

神社史料研究会叢書Ⅱ

山本信吉・東四柳史明編

神社の造営は律令国家の確立とともに始まり、神祇信仰が高まる中で、国家・公家・武家・僧侶および地域民衆の支援をうけて行われ、その事業を通じて伝統文化の継承がなされた。古代から近世にいたる社寺造営が持つ政治・経済的側面に焦点をあて、一級史料を駆使して、その歴史的意義と実態を明らかにした研究論集である。

▶A5判・312頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1051-2

*八瀬童子 歴史と文化

宇野日出生著

京都・八瀬の地に平安時代から自治組織を形成し、天皇家や比叡山と深い関わりを持ってきた八瀬童子。非公開関係文書を調査し、彼らの激動と苦難の歩み、今に伝わる思想・行動を歴史に裏付けられた「文化」としてとらえた一書。

▶46判・224頁／定価1,890円 ISBN978-4-7842-1352-8

風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1615-4

祇園祭の中世 室町・戦国期を中心に

河内将芳著

祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきぼりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「囃取」の実態についても解き明かす。

▶A5判・360頁／定価4,725円 ISBN978-4-7842-1631-4

崇徳院怨霊の研究

山田雄司著

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになり、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられたのかを文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討し解明する。

▶A5判・314頁／定価6,300円 ISBN4-7842-1060-1

増補 陰陽道の神々

佛教大学鷹陵文化叢書17

斎藤英喜著

コロンビア大学での発表をもとにした論考「牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」」を収録して増補再版。疫神や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を平易に説く。

▶46判・356頁／定価2,415円 ISBN978-4-7842-1644-4

*王権と神祇

今谷明編

【内容】古代神祇祭祠と杵築大社・宇佐八幡宮／北欧神話のフレイと日本神話の大国主両神の一比較／社寺行幸と天皇の儀礼空間／六壬式占と軒廊御卜／中世王権と鳴動／『溪嵐拾葉集』における王権と神祇／伊勢に参る聖と王／中世密教における神道相承について ほか

▶A5判・348頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1110-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍はカバーに汚れ・傷みがございます。